

新潟医療福祉大学 視機能科学科の皆さんへのメッセージ
—視能訓練士への道—

島田眼科医院
視能訓練士 鈴木 宏明

視能訓練士を志す皆さんへ学生生活にとって大切なことは何か。視能訓練士として8年目を迎える私が学生時代に経験してきたこと、視能訓練士としていま思うことをお伝えする。

視能訓練士に必要なことは専門的なスキル、コミュニケーション能力、関連職種連携であると私は考える。学生の中に専門的なスキルを習得することは一番大切だが、その他には何が大切なのか。学生時の私が出した答えは「医療職≒サービス業」だ。答えを出して間もなく中学時代の恩師にボランティアで不登校児の遊び相手をして欲しいと伝えられる。コミュニケーション能力を伸ばす絶好の機会だと感じ友人とともに参加することにした。子供たちと触れ合う中でコミュニケーションの取り方は会話だけでないと教えられた気がした。さらに出身高校へ出向きバドミントンのコーチをすることにした。得意なことを利用することで後輩を指導し、人に物事を教える難しさ、後輩の反応からは自分自身が次のステップへ向かう為には何が必要かを考えられると思ったからだ。効率的に試合を組み立てなければ、勝てないことを伝えるが、自分の視能訓練士になるまでの道のりを言い聞かせているようだった。その他には、大学時代に「関連職種連携論」を選択したことで眼科以外の目線からも患者さんを診る大切さを学んだ。「関連職種連携論」では、一つの症例に対して看護師をはじめ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などとともに検討する。脳梗塞を発症し、片側麻痺を有する患者さんの例では理学療法士が身体的な評価をした。どちらの手が利きやすい、歩く時の介助は左右どちらが良いかなどである。視能訓練士の立場では、残存している視野を評価し、同名半盲である場合のアプローチの仕方を伝えることで他科との連携を図る。また、言語聴覚士がいることで、検査時に会話が困難である場合に意思の疎通方法をアドバイスしてもらえる。まさにチーム医療である。これらの学びは視能訓練士として働くうえでも、とても役立っている。患者さんへの対応や、検査の説明は視能訓練士の責任をもって果たさなければならないからだ。

学生それぞれの興味、関心は異なるが、どのような活動においても目的をもって行動することで何事にも替え難い経験が得られることを伝えたい。それがすべての患者さんのために繋がると考える。